「野球と米沢」　展示資料解説

※実際の展示順とは必ずしも一致しません
※一部、実際には展示されていない資料があります

興譲　第二巻第二号（当館蔵　K051/ヤ）

明治 34 年（1901）8 月、米沢中学校興譲会発行の会誌。掲載内容は、生徒による論文や文芸作品など多岐にわたるが、その内に米沢中学野球部の初の対校試合である山形中学戦の観戦記が含まれている。明治 32 年に寄宿舎生による野球チームは作られていたが、この年米沢中学を代表する野球部が創設された。

観戦記内で使用されている用語は現在のものと異なるものも多く、加えて、古風な文語体で書かれており、一見すると野球の試合ではなく、戦国時代の合戦記かと思わされる箇所もある。

文末にはスコアブックが掲載されているが、今日一般的に使われているものとは異なる形式で記されている。ホームインした選手には〇、アウトになった選手には×、残塁した選手には S（スタンディング）の記号が付されている。

米沢中学の先発投手の上杉亀雄は米沢藩 12 代藩主・斉憲の子。明治 35 年に米沢中学を卒業し陸軍に仕官した。

興譲　創立五十年記念号（当館蔵　K051/ヤ）

昭和 11 年（1936）発行の創立 50 年記念号。野球部の歴史を扱った箇所には、明治 34 年の最初の対校試合のよもやまが記されている。米中は赤、山中は白の鉢巻をし、脛巾（ゲートル）をつけ、ショートと外野は素手で試合に臨んだという。試合に敗れた山中は、試合後選手一同坊主になった、ともする。

余談になるが、本誌が発行された昭和 11 年、米中野球部は県大会で優勝を果たすも、続く東北大会の決勝戦で山中に敗れ、甲子園出場を逃した。

米沢新聞　明治 35 年 10 月 22 日付 3 面（当館蔵）

明治 35 年（1902）、創立 2 年目の米中野球部と山形中野球部の試合結果を伝える。確認できる内では、米中野球部の試合を取り上げた最古の新聞記事。得点を「回」の単位で数え、無得点を「全敗」と表現している。

米沢興譲館野球部史（当館蔵　K783/ヨ）

平成 14 年（2002）発行。米中寄宿生によってチームが結成された明治 32 年からの主な戦績と部員の回顧録を掲載する。一つの学校に留まらず、米沢の野球の歴史を知る上で基礎的な資料であるといえる。皆川による回顧記も収載されている。

（参考）**運動年鑑　大正８年度**（国会図書館デジタルコレクション収載。
https://dl.ndl.go.jp/pid/955126/1/120）

大正８年（1919）、朝日新聞社編。「第一回全関東関西対抗野球戦」と銘打たれた、当時の名手たちによる東西対抗戦において、米中野球部出身の富樫興一が全関西軍のメンバーに入っていることが確認できる。二試合が開催されたが、富樫は両試合で打点をあげチームの勝利に貢献した。

富樫興一は進学した慶応大でも野球部に所属し、卒業後は阪神電鉄に就職。昭和 10 年（1935）に創設された大阪野球クラブ（後の阪神タイガース）の初代球団代表に就き、実務の中心を担った。終戦直後の球団再興に尽力した後、昭和 24 年のプロ野球再編問題にあっては新規球団の加盟を認め、阪神は巨人と同じリーグに残ることを決めるなど、今日の日本プロ野球を形作る上で中心的役割を果たした。

有為会雑誌 495 号（当館蔵　K051/よ/495）

昭和 15 年（1940）発行。会員名簿の中に、阪神支部の会員として富樫の名がみえる。肩書は阪神電鉄社員とある。

阪神タイガース　昭和のあゆみ（当館蔵　783/は/3-1）

平成３年（1990）、阪神タイガース発行。球団創設からの歴史をまとめる。本編、資料編、プロ野球前史編の三冊からなる。コラム「歴史を刻んだ人々」の中で富樫が取り上げられているが、２リーグ分立時にセリーグ所属を決断した富樫について、「富樫の英断はタイガースの将来を明るいものにした」という関係者の証言が記されている。

なお、本資料は阪神球団から当館へ寄贈されたものである。

米沢新聞　昭和６年７月 30 日付１面（当館蔵）

この年、甲子園大会につながる県大会として初めて開かれた大会の決勝戦は、米沢中と米沢商の争いとなった。8-7 で米沢中が優勝を果たした。しかし、続く奥羽大会で敗れ甲子園出場は叶わなかった。

米沢新聞　昭和６年８月４日付１面（当館蔵）

大日本少年野球協会主催による軟式野球の全国大会へ県代表として米沢中と西部小が出場した。米沢駅に 500 名の市民が詰めよって両チームを見送った、とある。なおこの大会は戸塚球場で開催された。

米沢新聞　昭和６年８月５日付３面（当館蔵）

明日の全国大会開幕を伝える。各都道府県の代表校も記されている。

米沢新聞　昭和６年８月６日付２面（当館蔵）

全国少年野球大会の一回戦で米沢中と西部小の両チームが勝利したことを伝える。

米沢新聞　昭和6年8月7日付2面（当館蔵）

全国大会2日目の結果を報じる。両校敗退の報を受けた米沢の関係者や野球ファンの悲憤を伝える。

米沢新聞　昭和6年8月9日付3面（当館蔵）

全国大会から両校が帰米したことを伝える。米沢駅は出迎えの関係者で賑わった、とある。今後全国大会へ出場する地元校のための後援会組織を計画する向きがあることも伝えている。

米沢新聞　昭和6年8月13日付2面（当館蔵）

この年、第1回の県下都市対抗野球大会が開催された。山形軍を下した米沢軍が決勝へ進出したことを伝えている。

米沢新聞　昭和6年8月14日付1面（当館蔵）

都市対抗野球大会の決勝で鶴岡軍を下し、米沢軍が優勝したことを伝える。イニングごとの試合経過を詳しく記している。

（佐藤忠雄選手の写真アルバムより）（市内個人蔵）

昭和11年の県大会で優勝した米中ナインの一人、佐藤忠雄選手の写真アルバムより。チームメイトや試合中の様子などが収められているが、写真からは、この頃の米中野球部は早稲田大や日大の選手からたびたびコーチングを受けていたことがわかる。

米沢新聞　昭和11年7月31日付3面（当館蔵）

県大会優勝を果たし、甲子園出場を目指して東北大会に臨む米沢中への期待を記す。また、東北大会への応援ツアーを吾妻倶楽部が募集していることも伝える。吾妻倶楽部は米中野球部OBを中心とした社会人クラブを祖とするスポーツ団体。

米沢新聞　昭和11年8月5日付3面（当館蔵）

甲子園出場校を決める東北大会決勝戦に出場した米中の敗北を伝える。優勝した山形中は県勢初の甲子園出場校となった。

米沢新聞　昭和26年7月24日付2面（当館蔵）

米沢西高が県大会で準優勝し、東北大会出場が決まったことを伝える。皆川は1年生ながらエースとして活躍した。東北大会直前に右手小指を骨折したまま皆川は執念で力投するも、準決勝で敗退した。

米沢新聞　昭和27年7月23日付2面（当館蔵）

米沢西高が昭和11年以来16年ぶりに県大会で優勝したことを伝える。エースで4番の大役を見事果たした2年生の皆川には最高殊勲賞が贈られた。続く東北大会では接戦の末1回戦で敗れた。

米沢新聞　昭和 28 年 7 月 26 日付 2 面（当館蔵）

米沢西高が県大会準々決勝を快勝したことを伝える。3 年生で主将のエース皆川は酒田東高を 1 安打完封、かつ決勝点の 3 ランホームランを放つ活躍をおさめた。

米沢新聞　昭和 28 年 7 月 27 日付 2 面（当館蔵）

米沢西高の県大会優勝を伝える。先発の皆川は初回に先制を許すも立て直し、その後味方打線が爆発し、15 対 3 で快勝した。

米沢新聞　昭和 28 年 8 月 4 日付 2 面（当館蔵）

甲子園出場を争う東北大会の準決勝で、最大のライバルと目されていた福島商業に米沢西が勝利したことを伝える。先発皆川は 1 安打完封。甲子園出場まであと 1 勝とした。

米沢新聞　昭和 28 年 8 月 5 日付 2 面（当館蔵）

東北大会決勝で白石高に敗れたことを伝える。紙面からは米沢西の優勝は当然視されていたことがうかがえる。

九里学園の教育 26（当館蔵　K376/ク/26）

平成 9 年（1997）発行。高校時代、皆川とチームメイトだった九里学園教員・高野譲の回顧録が掲載されている。野球に明け暮れた 3 年間の思い出を綴るが、皆川の名前が多く登場している。平成 3 年、高野氏が部長を務めた米沢工高野球部は甲子園出場を果たした。

米沢新聞　昭和 29 年 1 月 13 日付 2 面（当館蔵）

高校卒業を控えていた皆川がプロ入りを決意したことを伝える。2 月からの南海ホークス春季キャンプに参加することとなった。皆川が進学をあきらめた立教大には、この年の春に長嶋茂雄が入学した。

米沢新聞　昭和 29 年 1 月 23 日付 2 面（当館蔵）

皆川の南海ホークスへの正式入団が決まったことを伝える。皆川は置賜から初めてのプロ野球選手となった。

米沢新聞　昭和 29 年 2 月 24 日付 2 面（当館蔵）

キャンプイン中の皆川について、スポーツ紙の報道によると新人最有望の選手と目されている、とする。同期入団には野村克也などがいた。

米沢新聞　昭和 29 年 3 月 1 日付 2 面（当館蔵）

皆川が背番号 49 で選手登録されたことを伝える。背番号は 8 年目の昭和 36 年（1961）から 22 に改められた。

米沢新聞　昭和 29 年 3 月 14 日付 2 面（当館蔵）

卒業式に参加するため一時帰郷した皆川が米沢新聞社を訪問したことを伝える。続く記事では市野球連盟の主催で壮行会が催されたことも報じられており、プロ入りした皆川に大きな期待が寄せられていたことがうかがえる。

米沢新聞　昭和 29 年 3 月 30 日付 2 面（当館蔵）

オープン戦に出場したルーキーの皆川が本塁打を放ったことを伝える。将来を嘱望されていた皆川だったが、1 年目・2 年目は目立った活躍をあげられなかった。3 年目に初勝利を収めると、ローテーションの一角入りしたこの年は 11 勝をあげ、後の偉業の基礎を築いた。

皆川睦雄ユニフォーム（米沢興譲館高校蔵）

南海ホークスのユニフォームのレプリカ。プロ後期につけた背番号 22 をあしらう。皆川の妻・真智子氏と、興譲館高校 OB で皆川と同学年の勝見哲朗氏の連名で皆川の母校・興譲館高校に寄贈されたもの。

皆川睦雄サインボール（米沢興譲館高校蔵）

名球会のロゴが入ったボールに「不忘恩」、台座に「一球入魂」とサインする。ともに皆川が終生好んで用いた言葉として知られる。

皆川睦雄野球殿堂入り記念球（米沢興譲館高校蔵）

皆川の野球殿堂入りを記念して平成 23 年（2011 年）に作成されたサイン入りの記念球。野球殿堂は顕著な活躍をした選手や指導者等を顕彰するため昭和 34 年（1959）に創設された。

皆川睦雄サイン色紙（米沢興譲館高校蔵）

「一球入魂」と記す。この言葉は野球指導者や野球記者とした活躍した飛田穂洲（とびたすいしょう）が創ったといわれる。飛田は昭和 35 年（1960）に野球殿堂入りした。

皆川睦雄サイン色紙（米沢興譲館高校蔵）

「不忘恩」と記す。

皆川睦雄サイン色紙（米沢興譲館高校蔵）

「自捨不惜身（自らを捨て身を惜しまず)」と記す。法華経にある不惜身命を元にして、身命を惜しまず努力を積み重ねる覚悟の必要性を記しているものと思われる。

皆川睦雄写真パネル（米沢興譲館高校蔵）

　通算 200 勝をあげた昭和 43 年（1968）10 月 6 日の対東映戦での投球シーンをパネルにしたもの。写真の上から「一球入魂」とサインする。以上の興譲館高校所蔵の資料は、同校で保管・展示されている。

米沢新聞　昭和 43 年 10 月 8 日付 1 面（当館蔵）

　コラム欄で皆川のプロ通算 200 勝達成を伝える。大偉業達成に際しても、皆川のコメントからは謙虚な姿勢が感じられる。皆川はこの年勝ち星を 31 まで伸ばした。今日まで、年間 30 勝以上を記録した投手はこの年の皆川が最後である。

米沢新聞　昭和 46 年 11 月 1 日付 2 面（当館蔵）

　皆川のこの年限りでの現役引退を報じる。プロ晩年は怪我に苦しめられたことが綴られている。プロ生活 18 年間で 221 勝 139 敗、防御率 2.42 という輝かしい成績を残した。引退後は解説者のほか、阪神・巨人・近鉄で投手コーチを務めた。

山形新人国記〈下〉（当館蔵　K281.2/ヤ/2）

　読売新聞山形支局編、昭和 53 年（1978）発行。山形県出身の著名人を取り上げる。この中で、プロ引退直後の皆川へのインタビューをまとめた文章も掲載されている。皆川は、自身と野球との出会いについて、昭和 20 年 8 月 20 日に初めて軟式球を目にしたことを記憶していると答えている。

名球会 comics27　皆川睦雄（当館蔵　K783.7/オ）

　平成 4 年（1992）刊行。名球会入りした名選手たちの足跡を漫画化したものの一冊。野球と出会った 10 歳の頃から、プロ引退までを描く。

（参考）**おじゃまします「ふるさとの友と」名球会　皆川睦雄**

（youtube 上で公開中。https://www.youtube.com/watch?v=zbcIAV3JWzI）

　NCV 米沢制作、平成 6 年（1994）9 月放送。野球部時代の仲間と久しぶりに再会した宴席上を取材したもの。皆川の飾らぬ人柄がうかがい知れる。

プロ野球人国記　北海道・東北編（当館蔵　K783/ﾌﾟ）

　平成 16 年（2004）発行。各都道府県出身のプロ野球選手たちを紹介する。皆川は山形県出身の代表としてあげられている。長年の活躍を評して、皆川は"粘りの見本"であるとする。

広報よねざわ　平成 17 年 10 月 15 日号（当館蔵）

　この年逝去した皆川の功績をたたえて、新設された米沢市民栄誉賞を贈られることが決まったと伝える。翌年には県民栄誉賞が贈られた。

米沢文化　第 35 号（当館蔵　K051/ヨ/35）
　平成 17 年（2005）12 月発行。この年の 2 月に亡くなった皆川の追悼特集が掲載されている。

郷土に光をかかげた人々　改訂 3 版（当館蔵　K281.0/ﾖ/改 3）
　郷土の偉人を紹介する、米沢こども新聞の連載記事をまとめたもの。平成 20 年（2008）の改訂版発行に際し、新たに皆川の功績を顕彰する文章が収録された。

米沢こども新聞　第 1 号（当館蔵　K370/Yo/1）
　昭和 33 年（1958）発行。皆川から米沢の子どもたちに贈られたメッセージを掲載する。18 勝をあげ、オールスターにも初選出された昨季をふり返りながら、さらなる活躍を誓う。

興譲　第 8 号（当館蔵　K 051/や/8）
　昭和 38 年（1963）興譲館高校発行。プロ 10 年目の皆川からのメッセージを掲載する。同期入団した 16 名のうち現役は皆川自身と野村克也の二人だけであるとし、自分に負けず、努力を続けることの重要性を訴える。

興譲館同窓会報　第 5 号（当館蔵　K374/ヤ）
　昭和 44 年（1969）発行。プロ生活 16 年目を迎えた皆川からの寄稿文を掲載する。5 年目のオープン戦に登板し、阪神の大打者・藤村富美男に覚えたてのシンカーで空振りを取ったことが、皆川の「一球入魂」の信念に繋がっている、と述べる。

興譲　第 27 号（当館蔵　K051/や/27）
　昭和 56 年（1981）に母校の興譲館高校に招かれた際の講演録を掲載する。自身の半生を振り返りながら、忍耐や感謝の心を持つことの大切さなどを訴える。

自然と歴史と織物の街　うぃず Y 別冊（当館蔵　K291.2/ウ）
　昭和 58 年（1983）発行。山形の情報誌うぃず Y の別冊号。米沢の文化や産業などを取り上げる中、「ふるさとの若者たちへのメッセージ」と題して皆川へのインタビュー記事が掲載されている。失敗を恐れず積極的に行動して欲しいと述べている。

進路講演会資料（当館蔵）
　平成 4 年（1992)、興譲館高校で皆川を招いて行われた進路講演会の配布資料。皆川の経歴や高校時代の成績などを記す。皆川の演題は「初心忘るべからず」。当時皆川は近鉄のピッチングコーチを務めていた。

皆川睦雄さんからのメッセージ（当館蔵　K289/セ）

昭和 60 年（1985）、関根小学校の創立 110 周年記念に招かれた皆川の講演録。仲間を思いやることの大切さなどを訴える。本誌は皆川が逝去した直後の平成 17 年（2005）秋に制作された。挿絵は当時の児童によるもの。5 年生の道徳学習の教材として使用された。

（写真）江本裕人（市内　個人蔵）

昭和 35 年（1960）生まれ。米沢商業から昭和 53 年ロッテに入団。皆川に次いで二人目の米沢出身のプロ野球選手となった。この写真は米商野球部時代、県大会の日大山形戦で打席に入る江本を写したもの。

（江本裕人写真アルバムより）（市内　個人蔵）

プロ入りを祝して上杉神社に参拝する米商のチームメイトたちと江本選手を写す。

（江本裕人写真アルバムより）（市内　個人蔵）

当時の紙面からは、プロ入りに際し複数の球団からオファーがあったことがうかがえる。結果、江本はロッテオリオンズに入団した。同期入団には落合博満らがいる。

（江本裕人ユニフォーム）（市内　個人蔵）

江本選手が実際に着用したロッテオリオンズのユニフォーム。青地に赤線が入ったビジター仕様。背番号は 58。

’91 甲子園（当館蔵　K783/コ）

週刊朝日増刊号。第 73 回の夏の甲子園出場校を紹介する。「置賜から甲子園へ」の悲願を実現した米沢工業野球部も紹介されている。

甲子園への道（当館蔵　K783/や）

米沢工業高校発行の甲子園出場記念誌。柳川戦の各イニングをはじめ、甲子園出場前後の写真を数多く掲載している。甲子園出場を祝う米沢市内の様子も掲載されていて、当時の盛況を伝えている。